

新しい時代に求められる資質・能力を育成するための指導法について

高校教育研究会議

研究員 會田 洋一（川崎市立川崎高等学校）

齋藤 嘉貴（川崎市立川崎総合科学高等学校）

佐々木 美和子（川崎市立幸高等学校）

中島 克己（川崎市立橋高等学校）

小泉 拓也（川崎市立高津高等学校）

指導主事 米倉 雅実 鶴木 朋和

I 主題設定の理由

中教審（第197号）答申（平成28年12月）には、現行学習指導要領における課題として、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報をもとにして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が示されている。さらに、次期学習指導要領では、広い視野に立ち、グローバル化する社会で主体的に生きる公民としての資質・能力の育成が必要であるとされている。

本市においては、「かわさき教育プラン」の基本目標にある「自主・自立」「共生・協働」のキーワードをもとに、各学校の実態に応じた取組を進めているが、「学ぶ意義」の理解や主体的な社会参画の姿勢に課題が見られる。これらは次期学習指導要領で示される新科目「公共」において重視される「地域や社会への主体的参画」の考えにもつながる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①自分の考えを他者に伝える力②相手と関わり合いながら、物事を進めていく力③様々な資料や情報をもとに、多面的・多角的に思考し、判断する力④PC等を活用し調べ取捨選択する力、発信する力⑤仕事や生活に生かしていくために必要な知識⑥主権者として主体的に社会に参画する態度 |
|--|

また、アンケートを行い、各校における生徒の課題やこれからの社会で生き

図1 本研究会議における「育成を目指す資質・能力」

る生徒の思い等を把握した。このアンケート結果と中教審答申や次期学習指導要領、かわさき教育プランの理念を踏まえ、本研究会議では、「育成を目指す資質・能力」（図1）を明確にした。そして、その育成を図る授業実践を生徒の実態に応じて行い、考察していくこととした。

II 研究の内容

1 研究の方法

- 「育成を目指す資質・能力」を明確にし、単元を通してその育成を図るために「単元を貫く課題」を設定した指導計画を立てて授業実践を行う。
- 主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の実態に応じた学習形態を工夫し、効果的な学習活動について考察する。
- 研究の成果をより明確にするために、各校共通のアンケートを5～6月と12月の2回実施する。

2 研究の実践

（1）川崎高等学校全日制課程普通科1学年での実践

①生徒の実態

今年度から附属中の生徒が高校に入学している。附属中では個人でタブレット PC を持っており、ICT 機器を利用した授業が行われているため PC スキルは高い。6月実施のアンケート結果より、「先生が知識を教えてくれた授業」が多いという印象をもっている生徒の割合が高かった。また、これからの社会生活の中では、表現力、コミュニケーション能力、思考力・判断力といった力が役立つと考

えている生徒が多かった。

②育成を目指す資質・能力

○ICT 機器の活用による自分の考えを他者に伝える力や相手と関わり合いながら、物事を進めていく力

○様々な資料や情報をもとに、多面的・多角的に思考し、判断する力

③実践例

<科目、単元> 倫理「生命と倫理」

<単元目標> 生命操作技術の是非について、多面的・多角的に思考し、自己の意見を論理的に発表する。また、そのことを通して、倫理観や生命そのもの、人間としての在り方生き方について、自覚を深めさせる。

<単元を貫く課題> 「生命操作技術における問題はなにか」

第1・2時	生命操作技術の課題をあげ、論理的・説得的な資料を作ろう
第3～5時	ディベートを通じて、生命操作技術の是非について考えよう
第6時	生命操作技術について、個人の意見をまとめよう

<授業展開（第3時）>

- ・導入：ディベートを行う上での注意点を確認する。判定員に判定表を配布する。
- ・展開：ディベートを行う。
- ・まとめ：振り返り用紙に記入する。

<活動の様子・生徒の反応> グループで作業を進めていく中で、様々な立場から事象について考えることで、積極的に生徒同士が学び合う様子が見られた。また、ディベートでは、総じてどの生徒も発言することができ、見通しをもって取り組むことで「情報を集め、まとめる」、スライドを用いて根拠を明らかにしながら「わかりやすく論理的に発表する」といった主体的な学びができていた。

④成果

情報収集や資料・スライド作成、ディベート時の判定員としての意見の書き込みなど、全ての活動場面でICT機器を使用したことにより、「ICT機器を活用した表現力やコミュニケーション能力、思考力・判断力」の育成につながる手立てとなったと考える。また、普段はあまり発言しないような生徒も積極的に発言するなどの姿が多く見られた。これらは、単元を見通した計画を立てたことによる成果であると考えられる。



図2 作業を進めている様子

図3 単元計画

(2) 川崎総合科学高等学校全日課程工業科3学年での実践

①生徒の実態

多くの知識をもっている生徒もいるが、それらを考察し自分の意見を表現する力に課題があると感じる。アンケート結果からも「自分の考えを発表した授業」への印象があまりないことがわかった。



図4 グループで話し合う様子

②育成を目指す資質・能力

○生活に生かしていくために必要な知識を身に付け、情報をもとに自分の考えを構築し、それらを他人に伝える力

第1時	石油はどこからきてどのような影響力があるのか
第2時	電気はどのように発電されているのだろうか
第3時	原子力発電とはどのような発電方法だろうか
第4時	どのようなエネルギーミックスが理想だろうか

③実践例

<科目、単元> 現代社会 「資源・エネルギー問題」

<単元目標> 現代社会における資源・エネルギー問題に対する関心を高め、生徒がそれらの諸課題を自らの課題として捉え生活に生かしていくために必要な知識を身に付ける。さらに、社会の在り方

図5 単元計画

などについて、多面的・多角的に思考する力を養う。

<単元を貫く課題>「限りあるエネルギー資源とどのように向き合うべきか」

<授業展開（第1時）>

- ・導入：教室で石油が使われているものを探す。
- ・展開1：石油産出国及び消費国ランキングから気づいたことをまとめ、発表する。
- ・展開2：輸出できる国が中東中心であることを理解する。石油に関する知識を理解する。
- ・展開3：欧米とイランの立場から石油輸出国の影響力について考察したことを隣の生徒に伝える。
また、隣の生徒の意見を発表する。
- ・まとめ：中東を中心とする石油輸出国の動向が世界に大きな影響を与えることを理解する。

<授業展開（第4時）>

- ・導入：前時で学習した発電方法などについて確認する。
- ・展開1：学習した内容をもとに個人でエネルギーミックス案を作成する。
- ・展開2：4人～5人のグループで、自分の考案したエネルギーミックスを紹介する。
- ・展開3：グループでエネルギーミックスを作成し発表する。他のグループの発表を聞き、他グループに質問をする。
- ・まとめ：自己評価を行い、本時の授業と単元全体を振り返る。

<活動の様子・生徒の反応> 第1時は戸惑いも見られたが中東に石油を多く依存していることを理解し、発表までしっかりと行っていた。第4時では活発な議論の反面、非現実的なエネルギーミックス構成や答弁を行うグループもあり、ねらいが浸透しなかった面も見られた。第1時では隣の生徒に考えを伝えるため、一方向に話をすれば良かったが、第4時では多くの仲間に話をするため、伝え方の工夫も見られた。

④成果

ペアやグループでの話し合いを取り入れたことにより、他者の意見に触れ生徒の社会に対する関心を高めることができた。また、生徒の様子から伝える人数によって話し方を変えるなどの工夫もみられ「他人に伝える力」の育成につながる手立てとなったと考える。感想からは「何かを得るためには、何かを捨てなければいけないことがわかった」など公民科のねらいである「社会の在り方に対して主体的に考察する」というものに迫る感想も見られた。単元を見通し計画したことによって、第4時では第1時から第3時の学習で身に付けた知識等を活用して考え、現実に即した話し合いとなり、現代社会が抱える課題であることに気づかせ考察させることが出来たと考える。さらに、アンケート結果から、自分の考えを発表した授業が「面白かった」「ためになった」という生徒の数が2倍に増えた。課題設定や学習形態の工夫による成果だと考えられる。

（3）幸高等学校全日制課程普通科1学年での実践

①生徒の実態

6月に実施したアンケートの結果より、話し合いながら学習を進めた授業は印象に残っていないが、コミュニケーション能力は将来必要であると感じていることがわかった。

②育成を目指す資質・能力

- コミュニケーション能力を育てる基本となる自己肯定感
- PC等を活用し調べ取捨選択する力、発信する力



図6 ICT機器を活用している様子

○主権者として主体的に社会に参画する態度

③実践例

<科目、単元> 日本史A「立憲国家の成立」

<単元目標> 我が国で近代国家を形成するための諸改革が進められ、立憲国家が成立するまでの過程を、社会や文化の変容と関連させて多面的・多角的に思考することができる。さらに、現代の人々と政治との関わりや主権者としての意識をもつことができる。

<単元を貫く課題> 「立憲国家が成立していく中で民衆の意見は取り入れられたのだろうか」

<授業展開（第2時）>

- ・導入：本時の学習目標を提示し発表方法を例示する。
- ・展開1：グループで1つの資料について調べ答えを探し、考えをまとめる。
- ・展開2：スライドで発表する。
- ・まとめ：ワークシートに感想・意見・自己評価、最も印象に残った資料とその理由を記入する。

第1時	自由民権運動をはじめた人々は、どのようなことを求めていたのか
第2時	自由民権運動の中で民衆の意見は取り入れられたのだろうか
第3時	松方財政は、人々の暮らしと自由民権運動にどのような影響を与えたのか
第4時	大日本帝国憲法は民衆の意見が取り入れられた憲法だったのか
第5時	初めての選挙は、民衆の意見が取り入れられるしくみになっていたのか

図7 単元計画

<活動の様子・生徒の反応> 一人一人が意欲的に取り組み、提案や意見をよく聞き認め合う様子が見られた。資料を活用し、議論が深まっているグループや発表を工夫しているグループがあった。

④成果

グループでの話し合いを通して、自らの考えを広げ深めるなど対話的に学ぶ姿が見られた。また、生徒の感想から、グループ内外で意見を認め合い、自己肯定感を感じさせることができた。さらに、発表時のスライドの表現を工夫するグループも見られ、自己表現を行うためのICT活用能力を高めることができた。単元を見通してその時代の人々にスポットを当てた単元計画を行ったことにより、生徒は「民衆」にも視点を置いて学習することができ、そこから現代の人々と政治との関わりや主権者としての意識をもたせることができたと考える。

（4）橘高等学校定時制課程普通科3学年での実践

①生徒の実態

他者と関わりながら、あるいは主体的に自分から働きかける学習に対し極めて消極的である。約9割の生徒が既に働く経験があり、卒業後も多くの生徒が就職を希望していることもあり、「労働」に関することに関心が高い。しかし、労働法制や権利に対する知識は乏しい。



図8 グループで話し合う様子

②育成を目指す資質・能力

○意見交流での共感や比較を通して主体的に他者と関わり合いながら、多面的・多角的に思考し、判断する力

第1・2時	自立した消費者になるためにはどうすべきか考えよう
第3～5時	労働者として必要な知識と対応力について考えよう
第6・7時	様々な働き方を理解し、雇用環境の改善について考えよう

図9 単元計画

○消費者・労働者としての権利等生活に生かしていくために必要な知識を身に付け、社会生活の中で適切な判断や行動に生かすことができる力

③実践例

<科目、単元> 現代社会 「豊かな生活の実現」

<単元目標> 消費者主権や労働問題、多様化する雇用形態について具体的事例や自らの経験等を通

して、多面的・多角的に思考し、整備されてきた法制度の内容や権利を理解する。また、問題解決の方法や生活に生かしていくために必要な知識理解への必要感を高め、実社会の中で主体的に判断し、行動する態度を育てる。

<単元を貫く課題> 「豊かな生活を実現させるために必要なことは何か」

<授業展開（第3時）>

- ・導入：多くの生徒がアルバイトで経験している問題事例を挙げ、体験談をもとに全体で話し合う。
- ・展開：「高校生アルバイトの罰金問題」の新聞記事をもとに問題点についてグループで話し合う。
- ・まとめ：労働基準法について理解し、それでも問題が発生するのはなぜかを考える見通しをもつ。

<活動の様子・生徒の反応> 必要感から問題意識がもてたことで発表する生徒が続き、労働問題に対する関心を高め、「共感」や「比較」しながら考えを深め合う様子が見られた。

④成果

切実感の高まる課題設定と少人数による話し合いの場を重ねることで、経験談や考えを聞いて欲しい、他者の考えや意見を聞いてみたいという意識や必要感が高まり、主体的に他者と関わりながら取り組む学習への関心が高まった。また、グループによる話し合いの中で、労働者と経営者の両方の立場での意見が出てくるなど、多面的・多角的に考える場面をつくり出すことができた。さらには、実生活での適切な判断や行動に生かしていこうとする意識をもった発言も見られた。これは、単元を見通して単元を計画し、生徒たちの自立につながるような授業を行った成果であると考えられる。

（5）高津高等学校全日制課程普通科3学年での実践

①生徒の実態

5月末に実施したアンケート調査で「先生が知識を教えてくれた授業」が多いという印象をもっている生徒の割合が高かった。また、学習課題について自分の意見を持ち、主体的に授業に参加することや主権者としての意識については課題があると感じる。

②育成を目指す資質・能力

○自分の考えを他者に伝える力、様々な資料や情報をもとに、多面的・多角的に思考し、判断する力

○主権者として主体的に社会に参画する態度

③実践例

<科目、単元> 現代社会 「日本の政治機構と現代政治の特質や課題をとらえよう」

<単元目標> 日本の政治機構について役割や権限、仕組みについて理解し、課題と改革の動きについて、

多面的・多角的に思考する。生活に生かしていくために必要な選挙制度の仕組みや課題等についての知識を身に付け、主権者として政治に参加する意欲を高める。

<単元を貫く課題> 「政治と私たちはどのように関わっているのか」

<授業展開（1時）>

- ・導入：本時の学習目標を提示し、学習への関心を高める。
- ・展開1：事前に作成してきた政党ポスターについて、グループ（4人）内で発表する。
- ・展開2：「10代を選挙に行く気にさせるキャッチコピー」をグループで考案する。

第1時	政治と私たちの暮らしはどう関わっているのか
第2時	国会と立法はどのようにになっているのか
第3時	内閣と行政はどのようにになっているのか
第4時	裁判所と司法はどのようにになっているのか
第5時	地方自治はどのようにになっているのか
第6時	選挙のしくみと課題は私たちにとってどう関わっているのか
第7時	政党と利益集団はどのような関係にあるのか
第8時	世論と私たちはどう関わっているのか

図10 単元計画

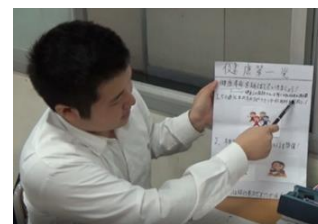


図11グループ内で発表する様子

・まとめ：各グループの発表を踏まえて本時の振り返りを行い、政治への関心を高める。

<活動の様子・生徒の反応> グループで活発な意見交換がなされた。政党ポスターは、生徒のユニークな発想に基づき、現在の政治課題について考察した。「10代を選挙に行く気にさせるキャッチコピー」を考案する学習課題にも積極的に話し合い、単元全体の学習につなげている様子が見られた。

④成果

グループでの話し合いを取り入れることで、互いに学び合いながら学習を進める態度が見られ、「主体的に学びに向かう力」の育成には有効な手立てだとわかった。学習後の生徒の感想には、「様々な意見を聞き、政治に関心をもつきっかけになった」というものが多く見られた。単元を見通した計画を立て、各時間の役割を明確にすることで、政治に関心を向けさせるための工夫ができ、主権者として主体的に社会に参画する態度の育成につながったと考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

各校共通のアンケート結果から、「地歴公民科の学習は、これからの社会生活の中で役立つと思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた生徒の割合が伸びている学校が多いことがわかる(図12)。

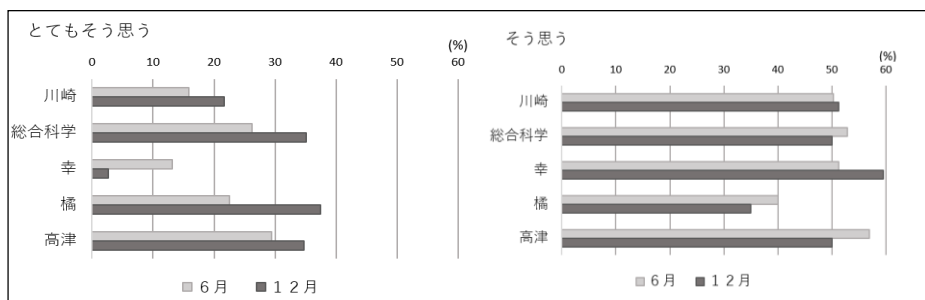


図12 アンケート結果「地歴公民科の学習は、これからの社会生活の中で役立つと思うか」

という問いに対して、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた生徒の割合が伸びている学校が多いことがわかる(図12)。また、「これまで受けた地歴公民科の授業で、面白かった・ためになった・印象に残った授業はどのような授業か」(複数回答可)という問いに対して、「生徒が話し合いながら学習を進めた授業」と「自分の考えを発表した授業」の割合が大きく伸びたことがわかる(図13)。

これは、各校の実態に合わせたグループでの話し合い活動やICT活用の工夫等の手立てを講じた成果だと考える。授業の中では、主体的で対話的な学びが展開される場面が増え、これからの社会生活に活かそ

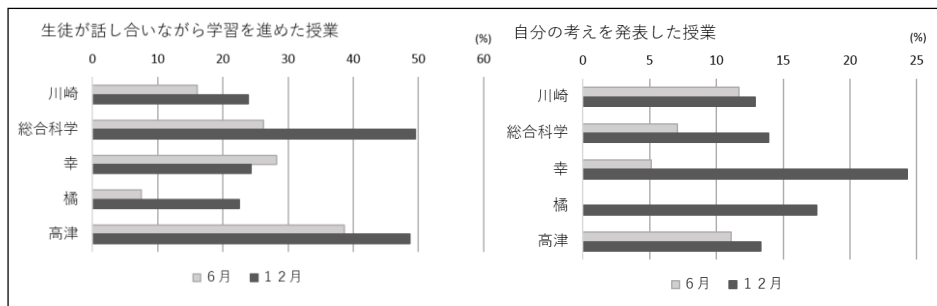


図13 アンケート結果「これまで受けた地歴公民科の授業で、面白かった・ためになった・印象に残った授業はどのような授業か」

うとする発言や会話、記述等が見られた。これは、教科に対する興味・関心や様々な事象に対する考察力、コミュニケーション能力などが育まれてきたからだと思われる。

2 今後の課題

育成を目指す資質・能力は、単元を見通すだけではなく、1年間さらには卒業時まで積み上げ伸ばしていくものである。よって、ICTの活用方法や発問、学習形態など、生徒の実態に合った工夫等の継続した取組が必要である。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けても、「単元全体を見通した指導計画」と「単元を貫く課題設定」を行い、PDCAサイクルを回しながら授業改善を継続していくことが重要である。

最後に、研究を進めるにあたり、ご指導、ご助言をいただきました先生方、研究をご支援いただきました所属校の校長先生をはじめとする教職員の皆様に、心からお礼申し上げます。